



学校生活と家庭での「創り」を考える

2013年7月3日 創造性教育研究会

話し合い内容

学校生活と家庭での「創り」


- レゴブロック組み立て
 - 自然物等を使った工作(図工)
 - リスの巣作り
 - 基地作り
 - 葉っぱで模様作り
 - ミニ四駆(改良)→応用
 - 自由研究(工作,研究...)
 - 探検(川根)
 - 調べたことをポートフォリオに入れていく(総合)
 - 修学旅行のアルバム作り
 - 修学旅行
 - 音楽:歌詞を考えて先生が音楽に
 - 美術, 図工(技能系教科)
-
- 子どもが新しい料理を作る(冷蔵庫の中の材料を使って)
 - ルールを変えて遊ぶ
 - 知らない街を探検する。



「創り」を生み出すために①

- 場所・場面設定
- 課題設定(目的 ex.おもてなし)
- 評価(ほめ方・フィードバックの方法)
- 質問方法(How,Why)
- 思考ツール
- 問題解決の達成感・成功体験(自己の目的の明確化が前提)
- 自分で課題を見つける。
- 子どもが課題を書き換える力(解決できる適切な問題の設定)
- 「創り」を生み出すための雰囲気づくり。
- ある程度の人数→最終的な解決は個人(一人っ子に対する支援)。少人数
- 豊富な資料。
- 職人との関わり・実際の場での体験(創造性を発揮している人を見る)。
- まとまった時間(学校教育のネック)。

「創り」を生み出すために②

- 「創る」ことの大切さをどう伝えていくか？（自分の軌跡を残す）
 - ポートフォリオでアイデアを一年分残す。
- ↓
- 「創り」のポートフォリオ：導いてく人が必要。←学校と教師の役割
 - 「学び」のポートフォリオ：学んだことをまとめているだけ。
-
- 自分の学習ノートを渡せるかどうか。
 - 「創り」を重視した小学校：12人～15人、コマ数が多い
 - 集団でいる意味...学びの効率化・ヒドゥンカリキュラム
 - 子ども自身の自信
 - 日本特有の「正しい」とは何か。←最適解以外を否定する。
 - 「失敗」の定義 正しくない＝失敗？
 - 価値観「どこに価値をおくのか」
- 

「創り」を生み出すために③

- 一つのことへの情熱(内面化)
- 一人で考える時間が必要？
- パソコンでの制作物は「創造」には入らない。
- ゲームは与えられた目標に沿って操作しているだけで、「創造」して行っているわけではない。
- 【課題】家庭や学校での「創り」具体的な案作り。
- 環境教育での「創り」を考える。



創造性を育むための教師の条件

- 褒め方
- 価値観(どこに価値を置くのか)
- 発問, 問題設定 ※重要
- わからないことを恐れない
- 記録すること
- 間違いを当たり前と捉える場を作る
- 教師自身の探究心



創造性の教科書作成について

今年度までに原稿作成

○分担

国語:柿沼

算数:塩田先生

理科(環境教育):山口・山本さん・柴崎さん

社会:酒井

○作成内容

各教科における授業における創造性アイデア

小学校4～6年対象

実践事例(アンケート・エコエデュ)

教室の環境づくり提案

○課題

技能教科(音・美・家)の位置付けの検討

